

品物は七月二十二日から二十三日にかけて、自治会正副会長、荒井福祉部長を加えた六人で分担してお配りしました。

諏訪形誌活用委員会主催
第四回ウォーキングイベント

須川への古道・須川地区散策

七月三十一日、コロナの第七波や「危険な暑さ」などとも言われる気候の中で心配だった諏訪形誌活用委員会第四回ウォーキングイベント「須川への古道・須川地区散策」が行われました。当日は須川自治会のご協力をお願いしました。また、須川自治会から手塚自治会長さんをはじめ五人の皆さんにもご参加いただき、総勢二十三名で実施しました。

イベントは二つのチームに分かれ、「全コースを歩く」に参加する八人の皆さんは八時に悠生寮西側の山道への入口近くに集合しました。ここから「須川の庚申塔」までは約二キロメートルの山道です。前日の雨で道が心配でしたが、ちょうど良く湿っている感じで問題ありませんでした。

最初は「蚕影社（蚕養国社）」の見学です。かなり傾いていて、ちょっと心配です。このあたりの少し下（北側）のあたりに「亜炭を採掘した跡」があるようです。地元には「何力所が採掘跡の穴があった」とのことですが、現在はどこにあるかわかりません。ご案内いただけの方がおられましたら諏訪形誌活用委員会までご連絡いただけると幸いです。



さて、「蚕影社」から「須川の庚申塔」へは山道を登っていきます。平均年齢はやや高めですが、平均年齢は元気で、快調に登っていきます。途中「アミタケ」が大量に見つかりました。さっそく「キノコ狩りイベント」に早変わりです。暑さが心配な旧道ルートでしたが、森の中のよく整備された山道は、涼しく快適です。



「須川の庚申塔」で「須川を歩くコース」十八名の皆さんと合流です。北沢伴康諏訪形誌活用委員会顧問から「庚申塔」についてのお話がありました。「庚申塔」について、詳しくは『諏訪形誌』の二七九ページをご参照ください。

なお諏訪形にも、「カンカン石」のすぐ北側、墓地の西側に「庚申塔」があります。このあたりは旧別所街道の路傍だったと思われる場所です。

「須川の庚申塔」から須川地区の散策が始まります。ご存じのとおり、須川地区は「日本の原風景」とでも呼ぶことができるような、何か心が休まる景色です。また景色ばかりではなく、決して広くはない地域の中

にたくさん神社や文化財などの見所も多いので、まだの方は一度散策してみたいと思いますよ。現在では二十軒、三十三人の皆さんが住んでおられるとのこと。下の写真は立派な出し桁造りの様式を持つ「横林家住宅」です。なお、出し桁造りの様式を持つお宅が諏訪形にも一軒存在することです。



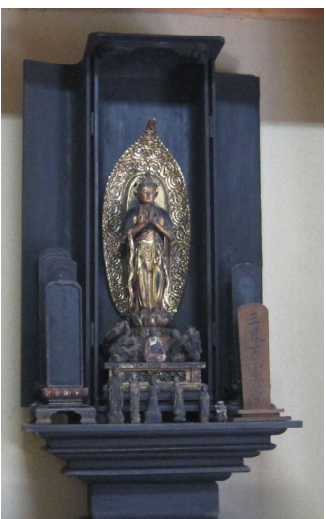
須川地区内を通って、公民館の裏手にある道祖神に出ます。このあたりが須川の中心です。道祖神祭ではこのあたりに「かまくら」を作るなどして盛り上がり、と須川の手塚自治会長さんが語っていました。なお、諏訪形にも五ヶ所、六基の道祖神があります。



須川公民館の中には、三夜堂から移された「地藏菩薩像」と「勢至観音像」が安置されています。この日はこの二体の仏像も拝観させていただきました。昔、地域の子どもたちは「地藏菩薩像」を引き出して遊んでいたそうです。ところが、実はこの「地藏菩薩像」は文化財級の価値を持つものだと。



と。そんなことは知らない子どもたちにとっては「いいおもちゃ」だったというわけですね。まあ、お地藏さんらしいといえば、確かにそう感じのエキゾチックであるようにも思いますが、これらの仏像について、詳しくは『諏訪形誌』二八三ページをご参照ください。



須川公民館で仏像を拝観した後は、「三夜堂」と「筆塚」に向かいます。公民館から少し離れた場所に「三夜堂」の跡があります。ここは現在の須川公民館ができるまでは公民館として使われていた建物とのこと。また、この「三夜堂」の前には立派な「筆塚」もあり、須川の若者たちが尾根山（丸子）から迎えた師範のために建てたものとのこと。須川の人々の気持が伝わってくるものです。



「三夜堂」から須川湖（須川池）に向かいます。この須川湖も、氷の切り出しや国民体育大会開催などで、須川や城下地域の歴史を見る上でたいへん重要な役割を果たしてきたものです。この日も何人かの釣り人が湖を訪れていました。詳しくは『諏訪形誌』一八四ページをご覧ください。

なお、須川自治会が須川湖畔に建てた案内板の記載によると「須川とぼんのくぼみは見たことがない」と言われ、周辺のどこからも見えない湖なのだとのこと。また、国分寺の釣り鐘の伝説（『諏訪形誌』二八四ページ）も伝わっています。

須川池から「大山祇神社」へ。いよいよ今日のイベントも終盤です。「大山祇神社」への道の途中に、今まで気がついていなかった道標がありました。これには「長久保道・別所道」の行き先とともに「地藏菩薩」の文字が刻まれています。「大山祇神社」の祭の賑わいはたいへんのもので、祭が行われていて、現在も毎年、村の自治会長も全員参加する習わしになっています。なお、「大山祇神社」については『諏訪形誌』二七五ページをご覧ください。



予定どおり十一時に「大山祇神社」で解散の後、「全コースを歩く」に参加の皆さんは、途中「上の山の神」「下の山の神」「凝灰角礫岩の岩柱」などを見学しながら県道塩川線を「タタラ塚古墳」まで下り、解散しました。

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。また、いつも解説をお願いしている北沢伴康諏訪形誌活用委員会顧問にも心よりお礼申し上げます。なお、「諏訪形誌活用委員会」では、これから数回、このような企画を続けていく予定です。自治会の回覧やホームページなどでお知らせします。皆さんのご参加をお待ちしています。

今回ご参加いただいた皆さんの感想など

・本日はありがとうございました。須川に生まれて育ったにもかかわらず、知らないことだらけでした。これからはもっと興味を持って村の中を歩いてみようと思います。子や孫にも話してあげようと思います。

・今日教えていただいた、須川にある文化財すべて初めて目にしました。大切に保存されているように思います。当時の文化、信仰に対する意識の高さはなぜなのか、思いを巡らすばかりです。



諏訪形誌ホームページ
<https://suwagata.ueda-common.net/>